



補強繊維混合吹付による防草

01

補強繊維混合吹付による防草とは



ケイエフがご提案するモルタル補強繊維混合吹付とは、**モルタル補強用ポリプロピレン繊維「バルチップMK」**と**クラック抑制ポリプロピレン短繊維タフライトRG**を混合して吹き付けることにより、モルタル構造物のクラック発生率をより低減して、耐久性をアップさせることでライフサイクルコストを低減する方法です。

のり面の、のり尻などに補強繊維混合吹付を行うことで、より永続的に防草効果が期待できます。

02

なぜクラック発生率が低減？

補強繊維には、その種類によって一長一短の特徴があります。

「**バルチップMK**」は、繊維長が長く凹凸があるので、モルタルが繊維1本1本にまとわりつき、抜けにくくひび割れ防止効果があります（**架橋効果**）。

また、曲げ靱性がUPするため、ラス金網を省略し、吹付厚を低減することも可能です。ただ、1本が長く太いためモルタル内に占める付着面積が少なくなってしまう。

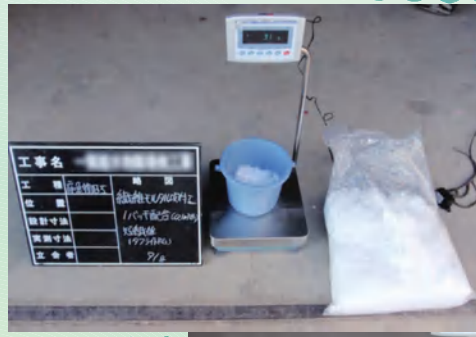
一方、「**タフライトRG**」は低添加ですが、繊維が細く短いため、モルタル内に占める繊維の付着面積が増えます。このことで目には見えないひび割れの発生や、ひび割れの成長を抑制してくれます。

「バルチップMK」と「タフライトRG」を混合することで、双方の長所のいいとこどりをした防草工となっております。



03 補強繊維混合吹付による防草の配合例

| | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| バルチップMK | タフライトRG |
| 1.0 Vol% (9.1kg / m ³) | 0.1 Vol% (0.91kg / m ³) |



04 補強繊維混合吹付による経済性

参考価格

モルタル吹付工 t=10cm

8,690 円/m²

(2026年 大阪府 市場単価)

モルタル補強繊維混合吹付工 t=7cm

7,270 円/m²

(2026年 大阪府 モルタル補強繊維混合吹付工)

(ラス金網省略・厚み低減の場合)

05 補強繊維混合吹付による防草 実施工例

岩手県 国交省現場

